



東彼杵町小中学校

令和7年1月21日

# 食育便り(給食週間号)

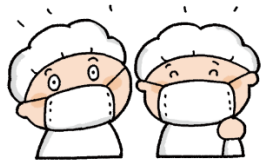
(発行者：東彼杵町立学校給食センター(東彼杵中) 栄養教諭 高稲)

1月24日から30日は『全国学校給食週間』です。学校給食の大切さや役割について考えるとともに、食に関わる方々への感謝や食事をする事のありがたさを改めて考えるために設けられました。この機会に、東彼杵町の学校給食の歴史を振り返ってみましょう。

## 【学校給食のはじまり】

明治22年(1889年)、山形県鶴岡町の忠愛小学校で、弁当を持ってこない子どもたちのために、昼食を提供したのがはじまりです。

戦後、昭和21年(1946年)12月24日、アジアを救う団体の放出物資により、東京都・神奈川県・千葉県で学校給食が再開されました。この日が戦後の学校給食開始の日ですが、冬休みになるため、一か月後の1月24日が給食記念日とされ、この日から一週間は給食週間と定められました。



## 東彼杵町の学校給食の歴史を振り返ってみよう!!

参考文献：東彼杵町誌『水と緑と道』

昭和38年4月～ 彼杵小学校で給食を開始。

昭和41年1月～ 千綿小学校・千綿中学校で給食を開始。

昭和42年4月～ 大楠小学校・音琴小学校で給食を開始。

昭和43年4月～ 彼杵中学校で給食を開始して、町内の全小・中学校が完全給食となった。

※米飯給食開始は、43年4月(彼杵中)、昭和49年4月(彼杵小・大楠小・音琴小・千綿小・千綿中)。

昭和56年4月～ 各学校の給食調理室を一つにまとめて、給食センター方式で実施して現在に至る。

※大楠小と音琴小が平成28年3月に閉校。

平成31年4月に千綿中と彼杵中が統合して東彼杵中となり、現在は小学校2校(彼杵小・千綿小)と東彼杵中の給食(約580食)を調理している。

また、平成26年度から地産食材や米の購入に対して町の補助が始まり、令和6年度からは町の補助により児童生徒の給食費が完全無償化となった。



### 学校給食の目標

- ①適切な栄養の摂取による健康の保持増進を図ること。
- ②日常生活における食事について正しい理解を深め、健全な食生活を営むことができる判断力を培い、及び望ましい食習慣を養うこと。
- ③学校生活を豊かにし、明るい社交性及び協同の精神を養うこと。
- ④食生活が自然の恩恵の上に成り立つものであることについての理解を深め、生命及び自然を尊重する精神並びに環境の保全に寄与する態度を養うこと。
- ⑤食生活が食にかかわる人々の様々な活動に支えられていることについての理解を深め、勤労を重んずる態度を養うこと。
- ⑥我が国や各地域の優れた伝統的な食文化についての理解を深めること。
- ⑦食料の生産、流通及び消費について、正しい理解に導くこと。

『学校給食法』より

